

情勢報告（平成 29 年 2 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

集落営農で地域を元気にしよう～室戸市の視察団と交流しました～



取組内容についての情報交換

1月20日、土佐町の伊勢川営農組合、松木野営農組合が室戸市の集落営農志向農家や関係機関13人の視察研修を受け入れました。普及所は、日程調整や各組合の視察資料作成等の支援を行いました。

伊勢川営農組合では、取組内容紹介とあわせて「直販・加工部会」による昼食、加工品の販売を行いました。松木野営農組合では、設立に至った経過や取組内容、現在取り組んでいる「干しいも」を紹介しました。

「地域が変わっても、農地を守っていききたい」という共通する思いがあり、取組方法等についてお互いが熱心に情報交換をすることができました。

集落営農研修会(集落営農塾)を開催しました



(農)はぎめの取組について聞く参加者

1月25日、土佐町が集落営農研修会(集落営農塾)を開催し、土佐町内の農家、農業委員、関係機関等34人の参加がありました。普及所は集落営農推進のための研修会の企画や運営について支援しました。

今回は、愛媛県の「(農)はぎめ」の取組事例についての現地研修を行いました。参加者からは「入作農家との話し合いはどのようにしたのか?」「出資金の状況は?」「法人化に向けて話し合う中で出た疑問点や、問題点は?」等、積極的に質問が出されました。

今後も普及所では、関係機関と連携し、集落営農組織の活動支援と集落営農の推進を行っていきます。

冬場の有望品目を情報交換 ～スナップエンドウの現地検討会を開催～



長期収穫作型について情報交換

J A土佐れいほく開発部会は、1月25日にスナップエンドウの現地検討会を土佐町で開催し、部会員3戸・4人が参加しました。

会では、まず普及所から、品種比較試験の経過や薬剤抵抗性を考慮した農薬使用方法について情報提供し、その後、今作の栽培状況や今後の販売方法等について、意見交換を行いました。

農家からは「品種比較試験では、収量性についても評価し、品種選定していきたい」等の声がありました。

管内のスナップエンドウ生産者は、以前に比べ減少し数戸となっていますが、長期収穫作型の導入など新たな取組も始まっており、普及所では引き続き冬場の所得向上を目指し支援していきます。

青果柚子の生産拡大に向けて ～ J A 柚子部会反省会～



青果柚子箱詰め

1月26日に青果柚子生産者9人が参加し、大豊町役場で反省会が開催され、28年度産の総括と29年度の生産・販売計画の検討を行いました。

部会では、優良系統への更新など青果柚子の生産拡大を積極的に進めてきましたが、これらの取組が功を奏し28年度の販売額は前年の4倍以上となりました。

普及所からは、優良苗の供給体制の整備や主要病害虫の重点防除、青玉から貯蔵玉までの長期出荷などを提案しました。これにより、部会員の士気が大いに上がり、次年度計画に反映されることになりました。

次年度は青果生産者が増えるので、生産拡大に向けた部会活動を今後とも支援していきます。

環境保全のトップランナーを目指して - I S O 監査 -



I S O 外部監査の様子

J A 土佐れいほく園芸部は、れいほく版 I S O に取り組み、環境保全型農業を推進しています。その活動を点検するため、J A 土佐れいほく本所で、1月31日に内部監査、2月9日に外部監査が行われ、J A 園芸部役員7人が参加しました。

普及所は、内部監査ではオブザーバーとして助言し、外部監査では監査補助として監査の進捗を補助しました。監査は大きな問題もなく終了し、継続して現在の取組を進めることになりました。

普及所では、J A 土佐れいほく園芸部が実践しているれいほく版 I S O 活動を支援しています。

これからの農業経営を考える！～「嶺振」農業部会が研修会を開催～



活発な意見で盛り上がったグループ討議

2月7日、嶺北地域の農業関係機関で構成する「嶺北地域農林業振興連絡協議会」の農業部会は、認定農業者、新規就農者、就農希望者等を対象に、「これからの農業経営を考える！～異業種の事例から学ぶ地域の未来づくり」と題し、土佐町の J A 土佐れいほく本所で研修会を開催しました。参加者は25人で、講師には企業等のキャリア教育で高い評価を得ている(株)ビスタワークス研究所結城先生をお迎えしました。

民間企業での人材育成例や経営理念等について学び、グループ討議を交えた研修は、「自分の目標達成に何が必要か」を考える良い機会となりました。

普及所は、今後も同協議会の事務局として、管内の関係機関とともに、研修会を企画するなど人材育成を支援していきます。

原価計算の必要性を再認識！－ 6次産業入門講座を開催－



キムチ料理の試食の様子

2月8日、6次産業入門講座を普及所で開催し、本山さくら市に併設する「さくら茶屋」を利用する加工グループなど、22人が参加しました。

普及所からは、じゃがいもや米粉などの地域食材を使った簡単料理の実習と農産加工品の原価について研修しました。また、「本山町キムチ生産組合うれっこ」からは、6次産業化セミナーで取り組んだ味の改善や原価計算を基にした作業と内容量の改善など、収益率の向上にむけた取組事例の発表、更にキムチを使った料理の試食を行いました。

アンケートでは、「最低賃金並みの労賃を出すのは難しいが、原価計算をしないといけないことがわかった」「どこの加工グループも苦勞していて、お互いの悩みや解決にむけたアドバイスを聞けて良かった」などの意見や感想がありました。

優良種子の生産に向けて～採種組合総会～



次年の作付計画を検討

嶺北管内の採種組合（田井採種組合、相川採種組合）が土佐町で、2月9日、10日に総会を開催しました。平成28年度は生産者28人が県内の60%を占める採種ほ場32haで早期3品種、普通期6品種を栽培しました。

普及所からは、今年の水稲生育状況と次年に向けた栽培上の注意事項として特に混種防止対策について説明しました。生産者は、採種におけるチェックシートを熱心に確認していました。

普及所は、これからも水稲採種農家に対して優良種子生産に向けた指導を行っていきます。

経営感覚を磨け！－ 農業基礎講座の開催－



熱心に経営管理について聞く参加者

2月16日、普及所で「農業経営について」と題して第5回農業基礎講座を開催し、管内の農業法人の研修生や認定新規就農者等10人が出席しました。

普及指導員が講師となり、農家経営の特徴や資金管理について説明しました。また、原価償却費、所得、家計費及び残るお金の計算をしました。

アンケートでは、「農業経営と生活経営の違いがわかった」「減価償却費は経費となるが、実際はお金が残るので、積み立てることが必要ということがわかった」「記帳して、PDCAに取り組むことの重要性を再確認できた」などの声がありました。

今後も計画的に農業基礎講座を開催し、若手農業者などの栽培技術や経営管理能力の向上を支援していきます。

